



予価 41,800円(税込)  
B5判・上製・函入・928頁予定  
ISBN 978-4-625-40410-8

2024年6月  
刊行予定!!

ご予約特典 通常版予価 41,800円  
(本体38,000円+税10%)  
12,100円割引 ↓  
予約版 定価 29,700円  
(本体27,000円+税10%)  
2024年4月30日まで

※裏面の注文書にご記入の上、最寄りの書店に  
お申込みください。

### 本書の 特色

- ◆中国の伝統文化(文学・思想・芸術など)と、それを受容・展開した日本の文化を広く扱う。
  - ◆大項目により、引く事典であるとともに、読む事典でもある。
- 項目例:暦・楽・科挙・出版文化・神仙・庭・茶・中国觀の変遷・漢文訓読・和歌と漢詩…
- ◆中国編(先秦～近代、250項目)・日本編(上代～近代、180項目)で構成。
  - ◆一般読者にも読みやすいように、専門用語・術語に頼らないわかりやすい解説。
  - ◆「日本と東アジア各国との交流年表」「東アジア歴史地図」ほか、充実した付録。
  - ◆「人名索引」「書名索引」「作品名索引」「事項索引」を完備。

# 中国・日本<漢>文化大事典

編者 川合康三(京都大学名誉教授)・大谷雅夫(京都大学名誉教授)・黒田真美子(元法政大学教授)・

小島 裕(東京大学教授)・後藤昭雄(大阪大学名誉教授)

- ◆全国の高校・大学図書館必備図書!
- ◆中国・日本の文学・思想を学ぶすべての方の必携書!

中国文化の深層に残る<漢>文化の総体を一冊に。

# 〈漢〉文化の受容と変容を辿ることで、日本文化の本質を明らかにする。

## 本文組見本 日本編

本文組見本  
中国編

本文組見本  
日本編

本文組見本  
日本編

### 陶淵明 とうえんめい

東晋の詩人。興寧三年（三六五）～元嘉四年（四二七）。名は潛、字は淵明、字は元亮。梁・沈約『宋書』隱逸伝はこのように記述する。「陶淵明傳」では、陶淵明、字は元亮、一説に名は潛、字は淵明。太祖・元亮の名と字が混乱していたことを示す。逆になつていて、早い時期から名と字が混乱していたことを示す。序（『文選』卷五十七）によると、元嘉四年に尋陽（現・九江市）に没したと言はれていない。『宋書』では、同じく元嘉四年に没したと記すので、逆算して興寧三年の生まれとする。しかし陶淵明の死年は六十三と記すので、逆算して興寧三年の生まれとする。しかし陶淵明の死年は六十三と記すので、逆算して興寧三年の生まれとする。しかし陶淵明の死年は六十三と記すので、逆算して興寧三年の生まれとする。

### 万葉集 まんようしゅう

奈良時代に編まれた現存最古の歌集。二十巻。仁徳天皇、雄略天皇の作と伝えられる古歌から、卷二十の巻末の歌、天平宝字三年（七五九）正月一日作の大伴家持の歌まで、長歌、短歌等を合わせて四五〇〇首あまりを収録する。編者は、古來諸説があるが未詳。成立年、成立事情も明らかではない。序文はない。

歌はすべて漢字のみで表記され、少數の漢詩文、漢文書簡などが含まれるほか、作者および作歌事情を明らかにする題詞と左注も漢文によって記される。日本語を明確に表記するための仮名文字、仮名文の誕生以前の書物であり、書物を作ることをはじめとするすべての文明が漢籍を通して学ばれていた時代の歌集であった。

書名「万葉集」という書名もまた、それとほぼ同時代の唐代の総集を例にとれば、「国秀集」「河岳英靈集」「箇中集」などの何何集という書名の一典型を襲うものである。その書名の意味も、それらの例に基づいて考察されるべきであろう。

「万葉集」の名義には、大別して二つの説があった。鎌倉時代の仙覚『万葉集註釈』が、古今集仮名序の「ヤマトウタハ、人ノ心ヲタネトシテ、ヨロヅノコトノハトゾナレリケル」という有名な文章を引用した上で、「万葉」を「ヨロヅノコトノハノノ義也」として、たくさんの木の葉を集めたような歌の集といふ意味に解釈したのが、古く流布したその一説であった。そして、江戸時代の契沖『万葉代匠記』（精撰本）が、その仙覚案とともに、「葉」には「世」の意味があり、「萬葉」が「万世」と同意に用いられる例が多いことに基づいて、「此集万世マデモ伝ハリネット祝テ名付タルカ」と万世に不滅の集という解釈を別に提示したのが、もう一つの新たな書名説であった。

二つの説は、その後もそれぞれの立場からの種々の検証を受けてきたが、「万葉」の意の「萬葉」の挙例が重ねられる一方で、たくさんの詩歌を意味する「万葉」の例は後世の一、二の例しか指摘しえない。「ヨロヅノコトノハ」説の、その解釈が、もう一つの新たな書名説であった。

### 日本における受容

八九一年ころに成立したとされる藤原佐世『日本国見在書目録』十巻と著録されていて、陶淵明の文集がこの時までにすでに日本化することが知られる。ただ、それが奈良時代であるのか、平安時代になるのかは明らかではない。淵明をふまえて作られた漢詩が、平安時代に現れる。菅原道真や三善清行、大江匡衡、藤原敦基などにも淵明による「萬葉」と題する七言絶句があつて、淵明の「子の儀等に与うる疏」がある。しかしながら、この疏もじつは『宋書』隱逸伝の淵明の伝記であるのであって、淵明の詩文集を読んで書かれたものではない。それは鎌倉・室町時代においても同様である。夢窓疎石門下の愚号」と題する七言絶句があつて、淵明の「子の儀等に与うる疏」がある。しかし、この疏もじつは『宋書』隱逸伝の淵明の伝記であるのであって、淵明の詩文集を読んで書かれたものではない。それは鎌倉・室町時代においても同様である。夢窓疎石門下の愚

詩文に深い関心を抱いていた。（釜谷武志）

## 中国日本〈漢〉文化大事典

編者 川合康三（京都大学名誉教授）・大谷雅夫（京都大学名誉教授）・黒田真美子（元法政大学教授）・小島毅（東京大学教授）・後藤昭雄（大阪大学名誉教授）  
B5判・上製・函入・928頁予定 ISBN 978-4-625-40410-8

### 注文書

ご予約特典  
2024年4月30日まで

通常版  
予価  
41,800円  
(本体38,000円+税10%) →→→→→  
予約版  
定価  
29,700円  
(本体27,000円+税10%)

※下記をご記入の上、最寄りの書店にお申し込みください。

店印	お名前 様	TEL
	ご住所 〒	ご注文
		冊